

奄美大島・喜界島農業の動き

■令和6年1月

1 さとうきびの春植面積確保をめざして

1月24日、奄美市の富国製糖(株)において来月から始まるさとうきび春植の面積拡大を期して推進出発式が行われました。式では、同社奄美事業所長が「糖度も上がり、平均価格も前年より1749円高く、生産者も喜んでいる」と挨拶し、昨期より約10ha増の94haの目標を掲げました。農政普及課でも、農家の基本技術の励行を啓発し、受託組織を育成する等、今後も産地の維持拡大のため取り組んでいくこととしています。

2 奄美市農業青年クラブがほ場巡回研修を開催

1月12日に奄美市農業青年クラブ主催のほ場巡回研修でクラブ員の経営状況、課題やその解決に向けた取組を相互に情報交換を実施しました。今回は、パッションフルーツを栽培しているクラブ員及び新規就農者のほ場を巡回しクラブ員をはじめ、指導農業士や関係機関等23名が参加しました。クラブ員の中には、ほ場に礫が多く整備に苦労している等、喫緊の課題を共有することで、参加者から活発な意見交換がなされました。ほ場巡回を通じてクラブ活動の活性化が期待される内容となりました。



ほ場巡回研修①



ほ場巡回研修②



ほ場巡回研修③